

もっと学びたい人へ (5)

❖ ❖

第5課のスキットの中に、「A ni B」(AはBである)という形の文が出てきました。この文の否定形は、「si」を用い、「A si B」で、「AはBでない」となります。

▽ 「A ni B」の文

A ni B. 〈AはBである。〉

A si B. 〈AはBでない。〉

これらで表わされるのは、「～である」状況、「～でない」状況のみで、普通は現状です。ここでは、「～であった」、「～でなかった」や、「～であるだろう」、「～でないだろう」といった、過去と未来の「～である」状況、「～でない」状況の表わし方について、一緒に見ていきましょう。

❖ ❖

◆ 「A ni B」の文の過去形と未来形

「A ni B」の文の過去形と未来形は、「～である」、「～になる」という意味の動詞本体「+ wa」を用い、動詞シルシ形のスル・シタ式で表現します。つまり、「AはBである」状態「であった／になった」、「AはBである」状態「であるだろう／になるだろう」というように表わすのです。否定形も同様です。

((例))

Saida **ni** mwalimu.

〈サイダは先生である。〉

Saida **si** mwalimu.

〈サイダは先生ではない。〉

((例:過去の「～である」状況))

Saida **alikuwa ni** mwalimu.

〈サイダは先生であった。〉

Saida **alikuwa si** mwalimu.

〈サイダは先生でなかった。〉

((例:未来の「～である」状況))

Saida **atakuwa ni** mwalimu.

〈サイダは先生だろう。〉

Saida **atakuwa si** mwalimu.

〈サイダは先生でないだろう。〉

動詞本体 '+ wa' の前の '-ku+' は、動詞シルシ形の音の調子を整えるために、挿入されています。また、肯定形では通常、'ni' は省略されます。

Saida **alikuwa** mwalimu.

(Saida **alikuwa ni** mwalimu.)

Saida **atakuwa** mwalimu.

(Saida **atakuwa ni** mwalimu.)

... ❀

